



T コマンド

この章では、T で始まる Cisco NX-OS セキュリティ コマンドについて説明します。

tacacs-server deadline

応答性について到達不能（非応答）TACACS+ サーバを監視する定期的な時間間隔を設定するには、**tacacs-server deadline** コマンドを使用します。非応答 TACACS+ サーバのモニタリングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

tacacs-server deadline *minutes*

no tacacs-server deadline *minutes*

シンタックスの説明

time 時間間隔を分で指定します。範囲は 1 ～ 1440 です。

デフォルト

0 分

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

時間間隔の設定をゼロにすると、タイマーがディセーブルになります。個別の TACACS+ サーバのデッドタイム間隔がゼロ（0）よりも大きい場合は、サーバグループに設定された値よりもその値が優先されます。

デッドタイム間隔が 0 分の場合、TACACS+ サーバがサーバグループの一部でグループのデッドタイム間隔が 0 分を超えていない限り、TACACS+ サーバモニタリングは実行されません。

TACACS+ を設定する前に、**feature tacacs+** コマンドを使用する必要があります。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例 次に、デッドタイム間隔を設定して、定期的なモニタリングをイネーブルにする例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# tacacs-server deadtime 10
```

次に、デッドタイム間隔をデフォルトに戻して、定期的なモニタリングをディセーブルにする例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# no tacacs-server deadtime 10
```

関連コマンド

コマンド	説明
deadtime	非応答 TACACS+ サーバをモニタリングするデッドタイム間隔を設定します。
show tacacs-server	TACACS+ サーバ情報を表示します。
feature tacacs+	TACACS+ をイネーブルにします。

tacacs-server directed-request

ログイン時にユーザが認証要求を特定の TACACS+ サーバに送信できるようにするには、**tacacs-server directed-request** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

tacacs-server directed-request

no tacacs-server directed-request

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト 設定した TACACS+ サーバグループに認証要求を送信します。

コマンドモード グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール network-admin
vdc-admin

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン TACACS+ を設定する前に、**feature tacacs+** コマンドを使用する必要があります。

ユーザは、ログイン中に `username@vrfname:hostname` を指定することができます。vrfname は使用する Virtual Routing and Forwarding (VRF; VPN ルーティングおよび転送) 名で、hostname は設定した TACACS+ サーバ名です。ユーザ名が認証用にサーバ名に送信されます。



(注) 指定要求オプションをイネーブルにする場合、NX-OS デバイスは認証用に RADIUS 方式のみを使用し、デフォルトのローカル方式を使用しません。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例 次に、ログイン時にユーザが認証要求を特定の TACACS+ サーバに送信できるようにする例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# tacacs-server directed-request
```

次に、ログイン時にユーザが認証要求を特定の TACACS+ サーバに送信できないようにする例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# no tacacs-server directed-request
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show tacacs-server directed request</code>	指定要求 TACACS+ サーバ コンフィギュレーションを表示します。
<code>feature tacacs+</code>	TACACS+ をイネーブルにします。

tacacs-server host

TACACS+ サーバ ホスト パラメータを設定するには、コンフィギュレーション モードで **tacacs-server host** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
tacacs-server host {hostname | ipv4-address | ipv6-address}
[key [0 | 7] shared-secret] [port port-number]
[test {idle-time time | password password | username name}]
[timeout seconds]
```

```
no tacacs-server host {hostname | ipv4-address | ipv6-address}
[key [0 | 7] shared-secret] [port port-number]
[test {idle-time time | password password | username name}]
[timeout seconds]
```

シンタックスの説明

<i>hostname</i>	TACACS+ サーバの Domain Name Server (DNS) 名。名前は、英数字で指定します。大文字と小文字が区別され、最大文字数は 256 です。
<i>ipv4-address</i>	A.B.C.D フォーマットの TACACS+ サーバの IPv4 アドレス
<i>ipv6-address</i>	X:X:X::X フォーマットの TACACS+ サーバの IPv6 アドレス
key	(任意) TACACS+ サーバ用の共有秘密鍵を設定します。
0	(任意) TACACS+ クライアントとサーバ間の通信を認証する、クリア テキストで指定された事前共有鍵 (0 で表示) を設定します。これがデフォルトです。
7	(任意) TACACS+ クライアントとサーバ間の通信を認証する、暗号文で指定された事前共有鍵 (7 で表示) を設定します。
<i>shared-secret</i>	TACACS+ クライアントとサーバ間の通信を認証する事前共有鍵。事前共有鍵は、英数字で指定します。大文字と小文字が区別され、最大文字数は 63 です。
port port-number	(任意) 認証用の TACACS+ サーバのポートを設定します。範囲は 1 ~ 65535 です。
test	(任意) テスト パケットを TACACS+ サーバに送信するようにパラメータを設定します。
idle-time time	(任意) サーバをモニタリングするための時間間隔を分数で指定します。時間の範囲は 1 ~ 1440 分です。
password password	(任意) テスト パケット内のユーザ パスワードを指定します。パスワードは、英数字で指定します。大文字と小文字が区別され、最大文字数は 32 です。
username name	(任意) テスト パケット内のユーザ名を指定します。ユーザ名は、英数字で指定します。大文字と小文字が区別され、最大文字数は 32 です。
timeout seconds	(任意) TACACS+ サーバへの再送信 TACACS+ サーバタイムアウト期間 (秒単位) を設定します。有効範囲は 1 ~ 60 秒です。

デフォルト

アイドル時間は、ディセーブルです。

サーバ モニタリングは、ディセーブルです。

タイムアウトは、1 秒です。

テスト ユーザ名は、test です。

テスト パスワードは、test です。

■ tacacs-server host

コマンドモード グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール network-admin
vdc-admin

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン TACACS+ を設定する前に、**feature tacacs+** コマンドを使用する必要があります。
アイドル時間間隔が 0 分の場合、TACACS+ サーバの定期モニタリングは実行されません。
このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例 次に、TACACS+ サーバ ホスト パラメータを設定する例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# tacacs-server host 10.10.2.3 key HostKey
switch(config)# tacacs-server host tacacs2 key 0 abcd
switch(config)# tacacs-server host tacacs3 key 7 1234
switch(config)# tacacs-server host 10.10.2.3 test idle-time 10
switch(config)# tacacs-server host 10.10.2.3 test username tester
switch(config)# tacacs-server host 10.10.2.3 test password 2B9ka5
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show tacacs-server	TACACS+ サーバ情報を表示します。
	feature tacacs+	TACACS+ をイネーブルにします。

tacacs-server key

グローバル TACACS+ 共有秘密鍵を設定するには、**tacacs-server key** コマンドを使用します。設定した共有秘密鍵を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

tacacs-server key [0 | 7] shared-secret

no tacacs-server key [0 | 7] shared-secret

シンタックスの説明

0	(任意) TACACS+ クライアントとサーバ間の通信を認証する、クリア テキストで指定された事前共有鍵を設定します。これがデフォルトです。
7	(任意) TACACS+ クライアントとサーバ間の通信を認証する、暗号文で指定された事前共有鍵を設定します。
<i>shared-secret</i>	TACACS+ クライアントとサーバ間の通信を認証する事前共有鍵。事前共有鍵は、英数字で指定します。大文字と小文字が区別され、最大文字数は 63 です。

デフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

TACACS+ 事前共有鍵を設定して TACACS+ サーバに対してデバイスを認証する必要があります。鍵の長さは 63 文字に制限されており、出力可能な ASCII 文字の使用が可能です (空白文字は使用できません)。グローバル鍵を設定して、デバイスにあるすべての TACACS+ サーバ コンフィギュレーションで使用するようにできます。**tacacs-server host** コマンドで **key** キーワードを使用することでこのグローバル鍵の割り当てを上書きできます。

TACACS+ を設定する前に、**feature tacacs+** コマンドを使用する必要があります。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、TACACS+ サーバ共有鍵を設定する例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# tacacs-server key AnyWord
switch(config)# tacacs-server key 0 AnyWord
switch(config)# tacacs-server key 7 public
```

関連コマンド

コマンド	説明
show tacacs-server	TACACS+ サーバ情報を表示します。
feature tacacs+	TACACS+ をイネーブルにします。

tacacs-server timeout

TACACS+ サーバへの再送信間隔を指定するには、**tacacs-server timeout** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

tacacs-server timeout *seconds*

no tacacs-server timeout *seconds*

シンタックスの説明	<i>seconds</i> TACACS+ サーバへの再送信間隔を秒単位で設定します。有効範囲は 1 ~ 60 秒です。
------------------	---

デフォルト	1 秒
--------------	-----

コマンドモード	グローバル コンフィギュレーション
----------------	-------------------

サポートされるユーザロール	network-admin vdc-admin
----------------------	----------------------------

コマンド履歴	リリース 変更内容
	4.0(1) このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	TACACS+ を設定する前に、 feature tacacs+ コマンドを使用する必要があります。 このコマンドには、ライセンスは必要ありません。
-------------------	--

例	次に、TACACS+ サーバのタイムアウト値を設定する例を示します。
----------	------------------------------------

```
switch# config terminal
switch(config)# tacacs-server timeout 3
```

次に、TACACS+ サーバのタイムアウト値に戻す例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# no tacacs-server timeout 3
```

関連コマンド	コマンド 説明
	show tacacs-server TACACS+ サーバ情報を表示します。
	feature tacacs+ TACACS+ をイネーブルにします。

telnet

NX-OS デバイス上に IPv4 による Telnet セッションを作成するには、**telnet** コマンドを使用します。

telnet {*ipv4-address* | *hostname*} [*port-number*] [*vrf vrf-name*]

シンタックスの説明

<i>ipv4-address</i>	リモートデバイスの IPv4 アドレス
<i>hostname</i>	リモート デバイスのホスト名。名前は、英数字で指定します。大文字と小文字が区別され、最大文字数は 64 です。
<i>port-number</i>	(任意) Telnet セッションのポート番号。範囲は 1 ~ 65535 です。
<i>vrf vrf-name</i>	(任意) Telnet セッションで使用する Virtual Routing and Forwarding (VRF; VPN ルーティングおよび転送) 名を指定します。名前では、大文字と小文字が区別されます。

デフォルト

ポート 23
デフォルト VRF

コマンドモード

任意のコマンドモード

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、**telnet server enable** コマンドを使用して Telnet サーバをイネーブルにする必要があります。

IPv6 アドレスで Telnet セッションを作成するには、**telnet6** コマンドを使用します。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、IPv4 アドレスで Telnet セッションを開始する例を示します。

```
switch# telnet 10.10.1.1 vrf management
```

関連コマンド

コマンド	説明
clear line	Telnet セッションを消去します。
telnet6	IPv6 アドレスで Telnet セッションを作成します。
telnet server enable	telnet サーバをイネーブルにします。

telnet server enable

Virtual Device Context (VDC) の Telnet サーバをイネーブルにするには、**telnet server enable** コマンドを使用します。Telnet サーバをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

telnet server enable

no telnet server enable

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト イネーブル

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール network-admin
vdc-admin

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例 次に、Telnet サーバをイネーブルにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# telnet server enable
```

次に、Telnet サーバをディセーブルにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# no telnet server enable
XML interface to system may become unavailable since ssh is disabled
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show telnet server	SSH サーバ鍵の情報を表示します。

telnet6

NX-OS デバイス上に IPv6 による Telnet セッションを作成するには、**telnet6** コマンドを使用します。

telnet6 {*ipv6-address* | *hostname*} [*port-number*] [**vrf** *vrf-name*]

シンタックスの説明

<i>ipv6-address</i>	リモートデバイスの IPv6 アドレス
<i>hostname</i>	リモート デバイスのホスト名。名前は、英数字で指定します。大文字と小文字が区別され、最大文字数は 64 です。
<i>port-number</i>	(任意) Telnet セッションのポート番号。範囲は 1 ~ 65535 です。
vrf <i>vrf-name</i>	(任意) Telnet セッションで使用する Virtual Routing and Forwarding (VRF; VPN ルーティングおよび転送) 名を指定します。名前では、大文字と小文字が区別されます。

デフォルト

ポート 23
デフォルト VRF

コマンドモード

任意のコマンドモード

サポートされるユーザロール

network-admin
vdc-admin

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(2)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、**telnet server enable** コマンドを使用して Telnet サーバをイネーブルにする必要があります。

IPv4 アドレスで Telnet セッションを作成するには、**telnet** コマンドを使用します。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、IPv6 アドレスで Telnet セッションを開始する例を示します。

```
switch# telnet6 2001:0DB8:0:0:E000::F vrf management
```

関連コマンド

コマンド	説明
clear line	Telnet セッションを消去します。
telnet	IPv4 アドレスで Telnet セッションを作成します。
telnet server enable	telnet サーバをイネーブルにします。

time-range

時間の範囲を設定するには、**time-range** コマンドを使用します。時間の範囲を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

time-range *time-range-name*

no time-range *time-range-name*

シンタックスの説明	<i>time-range-name</i> 時間の範囲名。範囲名では最大で 64 文字の英数字を使用でき、大文字と小文字が区別されます。
------------------	---

デフォルト	なし
--------------	----

コマンド モード	グローバル コンフィギュレーション
-----------------	-------------------

サポートされるユーザロール	network-admin vdc-admin
----------------------	----------------------------

コマンド履歴	リリース 変更内容
	4.0(1) このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	このコマンドには、ライセンスは必要ありません。 IPv4 ACL では、 permit および deny コマンドで時間の範囲を使用できます。
-------------------	--

例	次に、 time-range コマンドを使用して、時間範囲のコンフィギュレーション モードを開始する例を示します。
----------	--

```
switch# config t
switch(config)# time-range workweek-vpn-access
switch(config-time-range)#
```

関連コマンド	コマンド 説明
	absolute 特定の開始日時を持つ時間範囲を指定します。
	deny (IPv4) IPv4 拒否規則を設定します。
	periodic 1 週間に 1 回または複数回アクティブである時間の範囲を指定します。
	permit (IPv4) IPv4 許可規則を設定します。